

農繁期

レポート

令和5年 8月号

ニールファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

株式会社 新流
三重県伊賀地区
9.0アール
玄米252kg
無農薬栽培コシヒカリ



生産者 ツライフ農園：北出茂樹さん

稲の生育は高温のために刈り取り時期が早くなる傾向にあります。そこで、今年は例年より1週間程度田植えを遅らせて行い、刈り取りの適期は水分計と籾穂の色で判断をしています。とは言っても、例年とあまり変わらないように思います。今年は高温のためかカメムシがほとんどいない様に感じていますが、白未熟米や胴割れ米が多いのではと心配しています。刈り取りまであと少しですので、頑張って参ります。

8月の作業内容と稲の生長

1. 出穂 (しゅっすい)

茎の中で籾 (もみ) の集合体である「穂」が育まれ、約半数の茎が出穂する時期を「出穂期」、全ての穂がそろって「穂揃い期」と言います。出穂後に稲が葉で光合成したブドウ糖を穂に送り込み貯蔵します。これがお米です。

2. 稲の開花

イネの花を見る機会は少ないと思いますが、このような白い清楚な花を咲かせます。晴れた日の午前中にしか見られません。開花時間はわずか約2時間です。ちなみに1本の穂には100個くらいの花がついています。

3. 積算温度とは

平均気温を加算した値のことを言いますが、出穂 (穂から1粒以上の籾が確認できる状態のこと) から45日程度経過し、積算温度が1,000°Cに到達したタイミングが稲刈りの適期と言われています。

5. 草刈りが大切

農業は常に草との戦いです。特に今年は梅雨の長雨により草の勢いが通常よりも強めでした。この時期の草刈りはカメムシの混入を防ぐためにも特に大切な作業となります。カメムシの被害を受けたお米は黒く変色します。



出典: Kubota

4. 刈取適期の判断

日平均気温が22°Cだとすると、出穂後約45日で成熟期を迎えます。(積算温度で約1,000°C)そして、籾の9割くらいが黄色くなってくれば(黄化といいます)、いよいよ刈り取り適期となります。

